

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0821
 住 所 川崎市川崎区殿町3丁目25番12号
 氏 名 公益財団法人 実験動物中央研究所
 理事長 野村 龍太 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	公益財団法人 実験動物中央研究所		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区殿町3丁目25番12号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	A	農業, 林業
	中分類	01	農業
主たる事業 の内容	畜産類似業 (実験動物飼育業)		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,777	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	総務部
		所在地	川崎区殿町3丁目25番12号
		電話番号	044-201-8510
		FAX番号	044-201-8511
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成 26年度 ~ 平成 28 年度 (報告年度 平成 27 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名 (法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人 (法人にあっては、その代表者)を記載し、押印してください。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 3,821 t-CO ₂ (調) 3,180	(実) 3,542 t-CO ₂ (調) 2,927	(実) 3,675 t-CO ₂ (調) 3,050	(実) t-CO ₂ (調)	(実) 3,706 t-CO ₂
削減率		(実) 7.3 % (調) 8.0	(実) 3.8 % (調) 4.1	(実) % (調)	(実) 3.0 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	延床面積		単位	t-co2/m2	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	0.3296	0.3056	0.3170		0.3197
削減率		7.3 %	3.8 %	%	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	設備の運用面を見直し継続的に実施している省エネルギー対応により、実排出量を7.3%削減する事ができた。
第2年度	従業員数増加、猛暑に対し居室・事務室の空調設定を微調整する事で、排出量および原単位はともに基準年度比で3.8%低減する事ができた。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の構築 ・主要設備運用上で把握・見直し・検討 ・外気条件変動時における、設定変更を適時行う ・政府推奨冷暖房設定を採用 ・コージェネレーション及びボイラーの適正管理 ・不適切な照明の消灯 ・事務機器・実験機器の不要時電源断・低電力モードの活用及び導入検討
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・組織体制：エネルギー管理委員会を設置し4名の委員を選出した ・動物空調の設定を変更し影響を検討した 空調機は適切に管理している ・空調機：外気条件変動に合わせて適時設定を変更した ・政府推奨冷暖房設定を採用している ・コージェネレーション及びボイラーの燃焼調整を行っている ・照明：適切に不要部分を消灯している ・事務機器：PCを省電力モードに設定
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設定：居室・事務室の設定を、エネルギー効率を考慮して微調整した ・空調設定：サーキュレーターによる室内空気の攪拌 ・空調機：試験的に一部インバーターを無駄のない動作に設定 ・照明：消灯は夜間の安全を考慮したパターンに変更 ・機器：自動販売機（1台）をLED・ヒートポンプ使用の省エネ型に交換
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

建物新築時において太陽光発電設備を導入済みであり、今後の増設計画なし。

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電設備	建物側面設置 能力30KW	平成23年	導入済

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし。
第1年度	なし。
第2年度	なし。
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	環境負荷の少ない飼育業務、研究活動を目指し、逐次環境への影響度を把握、見直しを行う。ゴミ分別・リサイクル・減量・抑制を徹底する。個人において環境知識向上の為、定期的教育を実施する。
第1年度	ゴミ分別・リサイクルを実施。
第2年度	紙、燃えるゴミ、ビニール類、金属を分別。 IT機器類、事務機器、什器、フリーザー等の機器についてはリサイクルを実施。
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	3,570	t-CO ₂
(調)	3,523	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k1 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
公益財団法人 実験動物中央研究所	川崎市川崎区殿町3丁目25番12号	0125	実験動物飼育業	3,570 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 以上 1,500k1 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
なし				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k1 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--